

令和元(2019)年度 病害虫発生予報 第11号

令和2(2020)年2月14日
栃木県農業環境指導センター

施設野菜の病害の発生に注意しましょう。

予想期間 2月下旬～3月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は多い(平年比 203%：ほ場率、平年比 500%：株率)。(+)
・向こう1か月の降水量は平年並、日照時間は少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・発病した果実、果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・発生状況に応じてピクシオDF等を葉裏にもよくかかるよう散布する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比 31%：ほ場率、平年比 0%：株率)。(－)
・向こう1か月の降水量は平年並、日照時間は少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行うなど、ほ場管理に留意する。
・発生を予防するため、硫黄粒剤でくん煙する。
・発生が見られたらネクスターフロアブル等を散布する。
- (4) 備 考 ・硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、天敵を導入した場合は長時間のくん煙処理は避ける。

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比 105%：ほ場率、平年比 50%：株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・低密度のうちにカウンター乳剤等のIGR剤を散布する。
・花を観察して、1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなる恐れがあるため、ディアナSC等を散布する。
- (4) 備 考 ・秋期にアザミウマ類の発生が多かった施設では、注意が必要である。
・[防除のポイントNo.19](#)、[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比 78%：ほ場率、平年比 54%：株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・気門封鎖剤や天敵製剤を活用するとともに、化学農薬のローテーション散布を行うことで抵抗性の発達を抑制する。
・気門封鎖剤は、5日程度の間隔をおき複数回散布する。
・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや多い(平年比 214%：ほ場率、平年比 93%：株率)。(+)
・向こう1か月の降水量は平年並、日照時間は少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用

いた通風により、施設内の湿度低下に努める。

- ・発病葉、発病果や花卉は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
- ・発生状況に応じてファンタジスタ顆粒水和剤等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- ・微生物防除剤（ボトキラー水和剤等）は発病前～発病初期に使用する。また、低温条件では効果が出にくいので、施設内温度は10℃以上を確保する。

(4) 備考 ・ [薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

6 なら 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 ・発生量：多い
- (2) 根 拠 ・現在の発生量が多い（平年比318%：ほ場率、平年比621%：株率）。（+）
・向こう1か月の降水量は平年並、日照時間は少ない見込み。（±～+）
- (3) 対策 ・施設内が多湿にならないよう日中に適度な換気を行う。
・被害葉は早期に取り除き、ほ場外で処分する。
・発病初期にストロビーフロアブル等を散布する。

7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	アブラムシ類	平年並	平年並	きゅうり	べと病	多	多
トマト	葉かび病	やや少	平年並		褐斑病	多	多
	コナジラミ類	やや少	やや少	きく	白さび病	やや多	多
	黄化葉巻病	多	多		ハダニ類	やや少	やや少
きゅうり	うどんこ病	平年並	やや多				

○施設野菜類の微小害虫を発生初期に防除しましょう。

施設野菜のハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類等の微小害虫は、気温の上昇に伴い急増します。ほ場をこまめに観察し、発生初期の防除を心掛けましょう。

○ORACコードを参考に、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

○花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょう。

ミツバチ・天敵等に対する農薬の影響の目安①、②、③を栃木県農作物等病害虫雑草防除指針 参考資料に掲載中。<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/tochigi>

○農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう。

○水稻の種子伝染性病害の発生を防止しましょう。

まもなく水稻の育苗の時期となりますが、消毒された健全種子を用い、使用する床土や育苗箱、育苗器などの育苗資材もしっかり消毒することで、種子伝染性病害の発生を防止しましょう。さらに近年、特に育苗期間中の高温が原因と思われる病害（もみ枯細菌病、苗立枯細菌病など）の発生が多くなっていますので、育苗ハウスなどの温湿度管理にも留意しましょう。

1か月気象予報（予報期間2月15日から3月14日 2月13日気象庁発表）

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率60%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10%	10%	80%
降水量	30%	40%	30%
日照時間	40%	30%	30%

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部 \(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。